

## 第7回アルツハイマー型認知症に関するプレスセミナー — 高齢社会をより良く生きる:健康長寿に残された課題—

### 1 部:痴呆症から認知症に、そして、正しい理解のために

厚生労働省老健局計画課認知症対策推進室室長 大島 一博  
認知症介護研究・研修東京センター長  
聖マリアンナ医科大学名誉教授 長谷川 和夫

### 2 部:調査発表 ～長生きができる社会について考える～

「生活者実態調査から見えてきた課題<認知症>」  
国立長寿医療センター研究所長寿政策科学研究部長 荒井 由美子

\*

日 時 :6月3日(金) 12:00~13:30

会 場 :六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、わが国の65歳以上の高齢者人口は総人口の19.5%に当たる約2487万人に上り過去最高となりました。そして、現在、要介護(要支援)認定を受けている高齢者は約406.7万人(平成17年1月)で、ほぼ半数に認知症の症状が見られました。厚生労働省の推計によれば、認知症(日常生活自立度Ⅱ以上)高齢者は今後も増え続け、2005年に169万人、2025年には2倍近い323万人達するとされています。

厚生労働省では、「認知症対策推進室」を設置し、認知症の原因解明や介護技術の確立、介護サービス・認知症ケアの質の向上など多岐にわたる関連施策に対しての総合的な取り組みを行っています。また、かねてより侮蔑的な表現として呼称変更が求められていた「痴呆」を「認知症」として行政用語を確定し、本年を“認知症を知る1年”として位置づけ、4月よりキャンペーンを開始しています。

1906年にドイツの精神医学学会でアロイス・アルツハイマー博士が報告した初めてのアルツハイマー病症例から今年で100年目を迎えます。この記念すべき2006年、高齢社会を迎え、アルツハイマー病が社会的問題として顕在化しつつある日本で、日本成年後見法学会、ドイツ-日本研究所、エーザイ株式会社、ファイザー株式会社は、アルツハイマー博士の母国であるドイツ連邦共和国大使館のご後援を得て、6月3日(金)午後12時より、「第7回アルツハイマー型認知症に関するプレスセミナー」を六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム(港区六本木)において開催いたします。

本プレスセミナーでは、冒頭で、駐日ドイツ連邦共和国大使館参事官 Werner Kampeter 氏に「日本におけるドイツ年」についてお話しいただいたのち、第1部で、「痴呆」に代る行政用語である「認知症」について、厚生労働省老健局計画課認知症対策推進室 室長 大島一博氏に「認知症への名称変更に

ついて」、認知症介護研究・研修東京センター長 長谷川和夫先生に「認知症の正しい理解」についてお話をいただきます。

第2部では、国立長寿医療センター研究所 長寿政策科学研究部長の荒井由美子先生による「生活者実態調査から見えてきた課題〈認知症〉」についての調査発表となります。この生活者実態調査は20歳以上の一般生活者（有効回答数：2025名）を対象に、高齢社会および認知症・介護に対する意識を確認することを目的として2004年秋に実施されました。本調査では、世界に類を見ないスピードで進展する高齢化の中で、高齢者になることへの不安や、長生きすることや認知症への日本人の意識が浮き彫りとなり、豊かな高齢社会構築に向けて示唆に富んだ結果を得ています。

また、当日は、プレスセミナー終了後の午後2時より「日本におけるドイツ2005/2006、アルツハイマー病発見記念アルツハイマー型認知症に関するワークショップ」を開催します。本ワークショップでは、世界に類の無い充実した高齢社会に向けて、残された課題である「認知症」を支える仕組みづくりのために「権利擁護」の視点から関係者による検討を行います。特に、権利擁護については、日本と同様の制度を先に確立したドイツと日本の現状を比較しながら、地域での理解と浸透に向けた課題などについて、共有とより良き制度利用のためのディスカッションを行います。ご興味がおありの方はぜひご参加ください。

エーザイ株式会社、ファイザー株式会社では、かねてより、『認知症』の半数以上を占める『アルツハイマー型認知症』の正しい理解と知識の普及を目指して、さまざまな観点から情報提供活動を行ってまいりました。その活動の一環として2001年11月より定期的に、メディアの方に向けて、認知症に関わるさまざまなテーマで「アルツハイマー型認知症に関するプレスセミナー」を開催させていただいております。

ご多忙の折とは存じますが、ぜひご出席賜りますようお願い申し上げます。

敬具

日本成年後見法学会  
ドイツ-日本研究所  
エーザイ株式会社  
ファイザー株式会社

※ なお、当日は軽食をご用意させていただきます。

※ 準備の都合上、誠に勝手ではございますが、出欠のご返事を同封の **FAX 返信用紙にご記入**  
**のうえ5月26日(木)までにご返信くださいますようお願い申し上げます。**

— この件に関するお問合せ先 —

- |                             |                  |                  |
|-----------------------------|------------------|------------------|
| ■ エーザイ株式会社 コーポレートコミュニケーション部 | TEL:03-3817-5120 | FAX:03-3811-3077 |
| ■ ファイザー株式会社 製品広報部           | TEL:03-5309-6726 | FAX:03-5309-9004 |
| ■ 共和ピー・アール株式会社 小島           | TEL:03-5537-0471 | FAX:03-5537-0470 |

## 第7回アルツハイマー型認知症に関するプレスセミナー 実施概要

■日 時 2005年6月3日(金) 12:00~13:30

■会 場 六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム  
東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49階 ☎03-6406-6220  
<交通>東京メトロ日比谷線・都営地下鉄大江戸線「六本木」下車  
東京メトロ南北線・地下鉄大江戸線「麻布十番」より徒歩約4~7分



### ■実施内容

<進行> 東京都老人総合研究所参事研究員 本間 昭  
東京都精神医学総合研究所 平野 美紀

ご挨拶「日本におけるドイツ年について」  
ドイツ連邦共和国大使館参事官

Werner Kampeter

<1部>痴呆症から認知症に、そして、正しい理解のために  
認知症への名称変更について

厚生労働省老健局計画課認知症対策推進室 室長 大島 一博

#### 認知症の正しい理解

認知症介護研究・研修東京センター長  
聖マリアンナ医科大学名誉教授

長谷川 和夫

<2部> 調査発表/生活者実態調査から見えてきた課題<認知症>

国立長寿医療センター研究所 長寿政策科学研究部長 荒井 由美子

※敬称略

<質疑応答>

- 共 催 日本成年後見法学会、ドイツ-日本研究所、エーザイ株式会社、ファイザー株式会社
- 後 援 ドイツ連邦共和国大使館

### ■□■ワークショップ実施プログラム■□■

◆会 場 六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム ※プレスセミナーと同会場となります。

◆開催時間 14:00～16:30

◆実施プログラム

<進行> 筑波大学法科大学院 院長/日本成年後見法学会 理事長 新井 誠  
 いけだ後見支援ネット 代表 池田 恵利子

時間	演題名	演者名(敬称略)
14:00 (10分)	開会挨拶 「ドイツ年記念ワークショップ開催について」	ドイツ-日本研究所 所長 Florian Coulmas
14:10 (15分)	「介護保険制度の今後の方向性について」	厚生労働省老健局計画課認知症対策室室長 大島 一博
14:25	話題提供 「ドイツの事例に見る認知症権利擁護の推進」	筑波大学法科大学院 院長/日本成年後見法学会 理事長 新井 誠
14:45 (40分)	「長生きしたい社会の実現に向けた地域での権利擁護推進の成果と課題」 1)「医師(かかりつけ医・専門医の役割と連携)の課題整理」	東京都老人総合研究所参事研究員 本間 昭
	2)「介護者(利用者)権利擁護の理解と新党に関する課題」	いけだ後見支援ネット代表 池田 恵利子
15:25 (40分)	ディスカッション 「長生きしたい社会の実現に向けて」	
16:05 (10分)	まとめ	認知症介護研究・研修東京センター長 聖マリアンナ医科大学名誉教授 長谷川 和夫
16:15 (5分)	閉会挨拶	ドイツ-日本研究所 研究員 Harald Conrad